

## 令和7年度2学期始業式 校長式辞

おはようございます。2学期が始まりました。9枚のカードのうち、1年生は2枚目、2年生は5枚目、3年生は8枚目のカードを切ることになります。どんな勝負を仕掛けますか。積極果敢に実行に移す皆さんに期待しています。

夏休み中には、先ほど表彰した吹奏楽部をはじめ、インターンシップやサイエンスキャンプ、価値創造ゼミやグレードアップゼミなど、様々なイベントに皆さんが積極的に参加して自分を鍛える様子に頼もしさを感じました。更に継続して自分を飛躍させてください。

さて、私は1学期の終業式で、「今年は第二次世界大戦終戦後80年の節目の年。戦争について読む・見る・考える・感じる・行動する夏休みにしてほしい」と話しました。皆さん、何かしら戦争について考えることがありましたか。

私は7月から8月にかけて戦争関連の特別番組をテレビ等でたくさん見た中で、共通して感じたことが一つありました。それは、あと10年ほどすれば戦争を直接経験した人はほぼいなくなる。そうすると、戦争を実体験者として語れる人がいなくなる。それに伴い、戦争の歴史が風化し、人々の心から戦争があったということすら忘れ去られてしまうのではないかという懸念を持ったのです。

それを避けるためにはどうすればいいと思いますか。私は「語り継ぐ」という行為が今後ますます重要になってくると思うのです。体験者でなくても、伝えられたことを次の世代に引き継いでいく。それが非常に大事なことになると思うのです。戦争については我々大人世代が皆さんのような若い世代に語り継いでいく責任があるでしょう。校長通信第14号で戦時中の与論島の様子についてほんの少しですが紹介したのもそのためです。皆さんが大人になったら、見聞きしてきた戦時中の与論島、日本、世界で起きていたことを若い世代の人たちに語り継いでください。これも、あの悲惨な歴史を繰り返さないためなのです。

「語り継ぐ」という観点から皆さんに知っておいてもらいたい人物がいます。南米ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領です。今年の5月13日に89歳で他界しました。この元大統領は「世界で一番貧しい大統領」として世界的に知られています。給与の9割は団体等に寄付して、自分は月1000ドル程度で生活していたと言

われています。大統領官邸にも住まず、車は古い年代物のフォルクスワーゲンだったのも印象的です。

“We heads of state should live like the majority and not like the minority.”  
(私たち国家の上に立つ人は少数派ではなく、国民の大多数のように生きるべきなのです。) という言葉は、日本の政治家に投げつけたい言葉です。国民にたった5%しかいない富裕層の生活ではなく、一般庶民の生活を知らなければ、国民の貧困や物価高など何が起きているのか理解できるはずがありません。

「世界で一番貧しい大統領」と言われることに対しては、次のように答えています。“Poor people are those who only work and try to keep an expensive lifestyle and always want more and more.” (貧しい人とは、ただ働き、お金のかかる生活を続けようとし、いつももっともっとと欲しがるとのことです。) 戦後、経済発展を遂げ、豊かな生活を手にしていると思込み、国の経済活動状況を示すGDPばかり気にしている我が国の頭をガツンと殴られるような気分です。

人類が発展することに関しては、次のように警鐘も鳴らしています。“Development cannot go against happiness. It has to be in favor of human happiness; of love between people, of human relationships, of caring for children, of friends, of having the essentials.” (発展は幸福を阻害するものであってはならない。それは人類に幸福をもたらすものでなければならない。愛を育むこと、人間関係を築くこと、子供を育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。)

このように発展が人類の幸福につながらなければならないことを訴えているのです。皆さんは経済的な国の豊かさを示すGDPに対して、国民が「どれくらい幸福を感じているか」という主観的評価に、平均寿命、寛容性、社会的支援、政治の腐敗度、人生の自由度などの要素を加えて点数化した国連の「世界幸福度ランキング」というものを聞いたことがありますか。

2024年のGDPランキングの1位はアメリカ。2位は中国、3位はドイツ、4位が日本です。それでは世界幸福度ランキングではどうでしょう。GDP 1位のアメリカは24位、2位中国は68位、3位ドイツは22位、そして4位日本は55位と「幸福度」ではどの国も大きく順位を落としています。この要因は何なのか。ム

ヒカ元大統領の言葉にヒントかあるような気がします。

“When you buy something, you’re not buying it with money, but with the time of life you had to spend to get that money. And that is fundamental.”  
(何かものをお金で買うとき、そのお金を手にするために費やした人生の時間で買うと考えるのが、基本的な考え方です。) だからこそ、お金に惑わされてはならない。お金を使いすぎると、人生の時間がなくなってしまう。利益とかマーケットとかが一番ではなく、そんなものよりも上に人生があるのだ、と訴えているのです。その人生において大切なものが人の幸福・幸せだと。その幸福・幸せは、人の愛、人間関係、子供、友人、そして生活するのに必要最低限のものに支えられているというわけです。シンプルな考え方ですね。

なかなか戦争がなくならない世界の指導者たちに聞かせたい彼の言葉が次の通りです。“It is possible to have a world with better humanity, but perhaps today the first task is to save lives.” (より良き人類の世界を創ることは可能だが、まず始めにやらなければならないことは命を救うことです。)

「寿命を延ばすために科学や医療を発展させておきながら殺し合いをするなんて、なんて矛盾した愚かなことをしているんだ」と、嘆いている姿が印象的でした。輝かしい学歴があるわけでもない、貧しい家庭で育ったムヒカ氏が、ネクタイにスーツという政治家のスタイルではなく、どこにでもいるおじさんの普段着で語るところに、妙な説得力を感じてしまうのは私だけでしょうか。与論島のおじさん・おばさんたちが子や孫たちに人として大切なことを語るような姿と重なります。

皆さんが今、学んだり探究したりしていることは、突き詰めて考えれば、「どうすれば人が幸せに暮らせるか」ということにつながっているはずです。皆さんが将来、おじさん・おばさんになったとき、若い世代に何を「語り継ぐ」のかは、皆さんのこれからの生き方次第です。ムヒカ元大統領が残した言葉も大切にして2学期の学校生活をスタートさせてもらいたいと思います。以上、2学期始業式の式辞とします。